

自 己 評 価 書

(平成25年度)

平成26年3月

鳴門教育大学附属中学校

I	学校の現況及び目的	1
II	評価項目ごとの自己評価	2
	1. 楽しい学校	2
	2. いじめの撲滅	12
	3. 生徒と向き合う時間の確保	17
III	自己評価根拠資料一覧	23

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属中学校
(2) 所在地 徳島市中吉野町1丁目31番地
(3) 学級等の構成
1 学年 4 学級 2 学年 4 学級
3 学年 4 学級 計 12 学級
(4) 生徒数及び教員数(平成 25 年 5 月 1 日)
生徒数 472 人 教員数 23 人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属中学校校則第 1 条において「小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、鳴門教育大学(以下「本学」という。)における生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする」と定めており、本校は義務教育を行う任務とともに、教員養成大学の附属中学校として、次のような使命をもった学校である。

- ① 大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究学校としての使命
② 地域の教育諸課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等教育関係機関からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
③ 鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本校は、校則第 1 条に示されている中学校教育の目的の達成のため、次の教育目標を掲げ、めざす生徒像・教師像・学校像を明確に示している。

知・徳・体の調和的人格の完成をめざし、自主・自立の精神、創造的能力、豊かな人間性をそなえ、国際社会の発展に寄与することのできる心身ともにすこやかな中学生を育成する。

めざす生徒像

- 目標を持ち、自主的、創造的に学ぶ生徒
- 強靱な意志と体を持ち、たくましく生き抜く生徒
- 優しく思いやりの心を持ち、人につくす生徒

めざす教師像

- 生徒を愛し、生徒とともに伸びる教師
- 強い使命感、鋭い教育観をもった教師
- 優れた指導力をもった教師

めざす学校像

- 創造的な知性を磨く学問学校
- 情熱的な意志を鍛える鍛錬学校
- 強健な身体を練る体育学校
- 敬和奉仕の精神に生きる人間学校

(3) 平成 25 年度重点目標

鳴門教育大学との連携を密にし、中期目標・中期計画・本年度計画の実現に努めながら、次の 3 本柱 5 項目から教育目標の具現化を図る。

- ① 楽しい学校(思考力・判断力・表現力を育む授業の創造)
② いじめの撲滅
③ 生徒と向き合う時間の確保

(4) 評価項目

- ① 楽しい学校
○ 学ぶ喜びを実感できる授業の実践
○ 思考力等を高める指導方法、教材・教具等の開発
② いじめの撲滅
○ コミュニケーション力を高める活動の充実
(生徒の本年度重点目標: 伝わる言動)
○ いじめ調査の実施とその結果を踏まえた取組の充実
③ 生徒と向き合う時間の確保
○ 生徒との関わりを深める取組の充実

Ⅱ 評価項目ごとの自己評価

評価項目 1 楽しい学校（思考力・判断力・表現力を育む授業の創造）

言語活動を充実させ、考えをまとめたり、深めたり、協議したりすることで、学ぶ喜びを実感させる。そのために教師は、指導計画・方法、教材・教具等の工夫改善に努める。

1 観点ごとの分析

観点 1-1 学ぶ喜びを実感できる授業の実践

全ての授業において、生徒が、自分の考えをまとめたり、深めたり、協議したりする言語活動を充実させることができているか。

(1) 言語活動を充実させるために

本校では、平成23年度から継続して文部科学省「教育課程研究指定校事業」を受託し、言語活動を充実させて思考力・判断力・表現力を育成する授業を実践研究している。この研究は、日々の授業はもとより、週1回の研究委員会、月1回の研究授業及び全教員による研究会により、学校組織を生かして深めている。また、指定校事業を活用して、文部科学省教科調査官を年2回以上招き指導助言も頂いている。

こうした取組により、よりよい理論となるよう工夫改善を重ねてきた。その理論は次のとおりである。

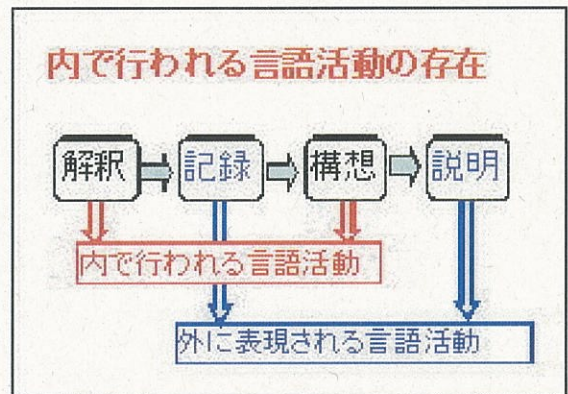


図1 内で行われる言語活動の存在

① 言語活動の要素

思考力・判断力・表現力の育成を目指して行われている各教科の活動を分析し、「説明」「記録」等といった教科を横断する要素で分類し、これを「言語活動の要素」と定義した。

言語活動の要素を確認すると、これらには、「説明」「記録」等のような外に表現されるものと、そこに至るまでの「解釈」「選択」「構想」等のような内で行われるものがあることが明らかになった。そこで、言語活動の要素を、内で行われる言語活動と外に表現される言語活動に分類した(図1)。そして、それらを一覧にした「言語活動の要素分析表」を作成した(表1)。

表1 言語活動の要素分析表

内で行われる言語活動

要素	意味・内容
選択	選び出す
整理	整える, 並べかえる
予想(推測)	あらかじめ想像する(推測する)
仮説	仮定する
構想	考えを組み立てる
計画	方法や順序を考える

外に表現される言語活動

要素	意味・内容
描写	物の形体や事柄, 感情等を客観的に表現する
音読・朗読	声を出して読む, 読み方を工夫して趣のあるように読む
記録	事実を書き記す
説明	よくわかるように解き明かす

解釈	情報を読み取り，主旨を捉える
鑑賞	芸術作品を味わう
把握(理解)	しっかりと理解する
比較(関連)	比べ合わせて考える
分析	物事を分解して，それを成立させている成分，要素，側面を明らかにする
評価	価値を判じ定める

紹介	知られていないものごとを知らせる
報告	事実を知らせる
創作	独創的に表現する
制作(製作)	ものをつくる

② 言語活動の構造化

言語活動を充実させるためには，先の言語活動の分析により明らかとなった，内で行われる言語活動（個人の内で行われる言語活動），外に表現される言語活動（個人の外に表現される言語活動，他者に対して表現される言語活動）を，図3のA→B→C→D→E→Fのように繰り返すことが必要であると考えた。このAからFまでの流れを「言語活動の構造化」と定義した（図2）。そして，AからFの各活動における「言語活動の要素」は教科によって異なっても「言語活動の構造化を図った授業」をすべての教科で共通に取り組むことで，連続的な思考・判断が促され，思考力・判断力が深まり，その結果，外に表れる表現力も高まると考えた。

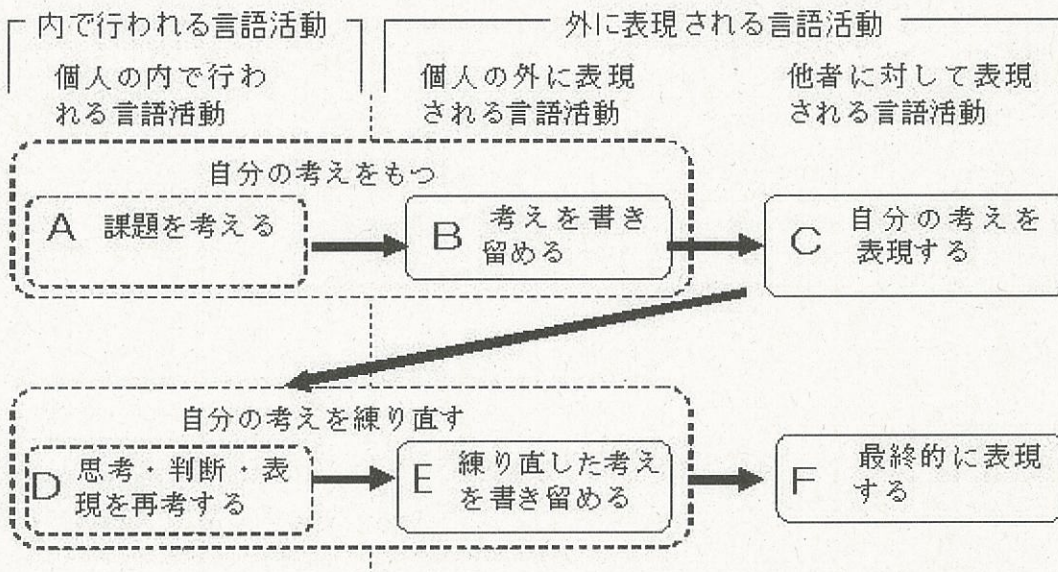


図2 言語活動の構造化

※この言語活動の構造化は，学級全体の学習活動ではなく，その授業における生徒個人の学習活動を示している。

(2) 実践例

(1)で述べた理論に基づき，全ての教科において言語活動を充実させて思考力等を育成する研究授業及び授業研究会を年12回以上行っている。また，6月7日に研究発表会を開催し，鳴門教育大学関係者はもとより文部科学省教科調査官，徳島県教育委員会教育次長 等，多くの有識者を招いて，本校の実践研究に係る指導助言を頂いている。次に，その実践例を示す。

① 年間指導計画への位置づけ

各教科でどのような言語活動が行われているのかを明確にするために，言語活動の構造化を図った授業を年間指導計画に位置付け，活用させたい知識・技能，学習課題，評価方法を示した。さらに，観点ごとに評価規準と，それを見取るための評価方法も示した（表2）。



表2 理科 第2学年 年間指導計画(評価計画)例 「一部抜粋『電流の性質とその利用』」

月	単元	学習内容	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解	「言語活動の構造化」を 取り入れた授業
1		電流の正体は何だろう(1)	・電気に関する自然現象や静電気による遊びに興味をもち、進んで体験しようとする。 (観察)				
2	電流の性質とその利用	1章 電流の性質(17) 1 電流が流れる道すじ④ 2 回路を流れる電流はどこも同じか③ 3 回路に加わる電圧はどこも同じか③ 4 電流の強さは何で決まるか③ 5 電流のはたらきはどのようなに表したらよいか④	・回路と電流・電圧、電流・電圧と抵抗、電気とそのエネルギーに関する事物・現象に進んでかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、事象を日常生活とのかわりで見ようとする。 (観察) (ワークシート)	・回路と電流・電圧、電流・電圧と抵抗、電気とそのエネルギーに関する事物・現象の中の問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、回路における電流や電圧の規則性、金属線に加わる電圧と電流の関係や電気抵抗、電流による熱や光の発生と電力との関連などについて自らの考えを導き、表現している。 (ワークシート) (ペーパーテスト) (レポート)	・静電気と電流に関する観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理などの仕方を身に付けている。 (観察) (ワークシート) (ペーパーテスト)	・静電気の性質や静電気と電流との関係などについて基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 (ペーパーテスト)	エネルギー① 知識・技能 開いた回路 閉じた回路 電流の向き 課題 ミステリーカードの回路を推理しよう 評価方法 既習事項をもとに、ミステリーカード内の配線を予想し、実験結果をもとに回路を考察しているのかを、ワークシートの記述から分析する。

② 言語活動の構造化を図った授業実践例

「言語活動の構造化」のDでは、思考・判断・表現をよりよいものにするために、交流活動で得たものから自分の思考・判断・表現を再構成させるようにした。特に、他の生徒の思考・判断・表現との違いや、自己の最初の思考・判断・表現との違いを自己認識させ、それを基に自分の思考・判断・表現を練り直すことができるよう留意した。(表3)。

表3 言語活動の構造化における再構成の場面

教科	工夫	再構成している場面	効果
英語科 「すすめたい旅行先を紹介しよう」	話し合いカードに基づいてペアで英文を読み合い、修正箇所を赤でチェックさせた。		○ 動詞の変化やつながり言葉を用いて、良い文章の書き方を身に付けることができた。
技術・家庭科 (家庭分野) 「目指そう！エコライフの達人」	付箋の色の違いから、自分と他者の考えを比較したり、他者からのアドバイスを参考にしたりして、練り直した自分の考えをワークシートに記述させた。		○ これまでの実践内容を整理し、継続して実践することができる内容であるかを考え、再度計画を立てることができた。

成果

- 授業のグループ活動において、楽しく仲間と意見交換する生徒の姿が当たり前となってきた。
- 入学式、文化祭といった学校行事等の代表生徒の発言場面において、手持ち原稿を棒読みすることがかなり減り、多くの生徒が大きな声で堂々と自分の考えを述べられるようになった。
- 科学・技術者の発掘・養成講座、科学の甲子園ジュニア、創造ものづくりコンテスト、ロボットコンテストなどに自主的に参加する等、仲間と意見交換しながら学ぶことを好む生徒が多くいた。



授業でのグループ学習（音楽）

課題

成果で挙げたように、主体的に楽しく学び、思考力等を伸ばさせている生徒が増えている一方で、次のような状況の生徒もみられる。

- 自分の考えを書けるが、大きな声で、わかりやすく説明することが苦手な生徒。
- 自分とは異なる意見の人と適切にコミュニケーションし、よりよい解決策を探ることが苦手な生徒。
- 課題意識を常に持ち、自ら課題を見つけて、その課題解決に粘り強く取り組む根気強さや探求心が十分ではない生徒。



科学の甲子園ジュニア（県予選）


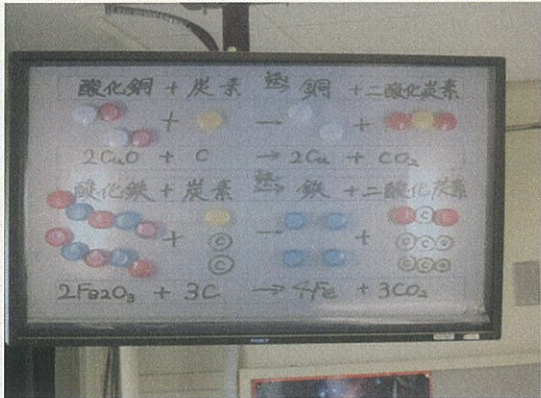
観点1-2 思考力等をも高める指導方法、教材・教具等の開発

生徒の思考力等をも高めるための指導方法や教材教具を開発することができたか。

(1) 可視化する教具の開発とそれを活用した指導方法

自らの思考・判断・表現を生徒自身が認識（自己認識）しながら学習すると、質の高い思考・判断・表現が行われる。この自己認識が見えるようにするための手立てが可視化である。可視化によって、他者に対する説明が容易になり、共通認識が図りやすいという効果もある。実践例を次に示す（表4）。

表4 思考・判断・表現の可視化を通して自己認識及び共通認識を図るための手立て

教 科	可視化の教具	効 果
技術・家庭科 (技術分野) 「メディアラックの設計をしよう」	CAD (computer-aided design) 	○ CAD は、設計したメディアラックの製作図を立体的に表示することができる。班で発表させる際に完成品をイメージしやすく、詳細に説明ができるため、お互いに共通認識を図ることができた。
理 科 「さまざまな化学変化」	ホワイトボード 	○ 原子モデルをホワイトボード上で自由に動かすことができる。これにより、物質を粒子として捉えて考えを整理し、表現することができた。また、このホワイトボードをモニターに映すことで、生徒全員が原子モデルを自己認識することができた。

(2) 活用カード・シートの開発とそれを活用した指導方法

知識・技能の明確化、あるいはその活用を円滑に行うための手立てとして作成したのが活用カード・シートである。

「活用カードα」 = 「『知識・技能』が整理・集約されたカード(シート)」

知識・技能が十分に習得できていないと言語活動を充実することが困難となる。そこで、「言語活動の構造化」の中で必要となる知識・技能などを確認できるように明確に示すシートを作成した。

「活用カードβ」 = 「考え方や課題解決に至る過程等を示したカード(シート)」

教科や単元(題材)、課題等の特性により必要に応じて用いられる考え方や課題解決に至る過程等を示すカードを作成した。

実践例を次に示す。

① 社会科

アマゾンの熱帯林伐採の是非について、基礎的・基本的な知識・技能が集約された活用シートα(図3)と考察する手順、発表する時の留意事項を示した活用シートβ(図4)を用いて、多面的・多角的に考察し、自分の考えを根拠を示して説明させている。

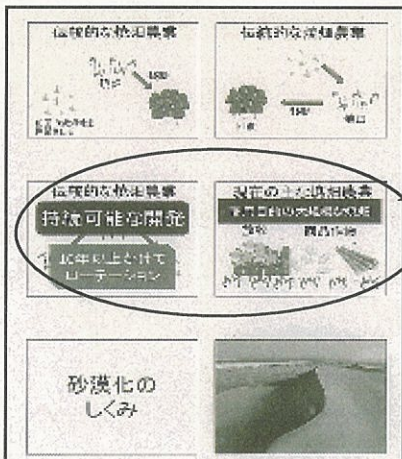


図3 活用シートα

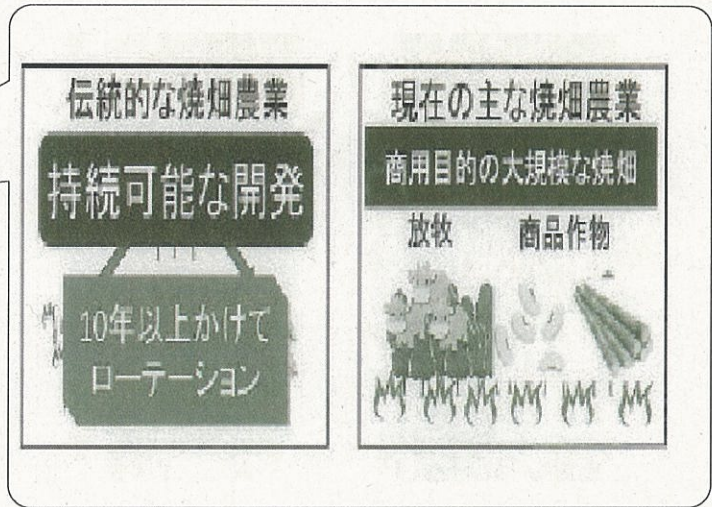
【南アメリカ】 熱帯アマゾンにみる焼畑農業と畜産
 学習課題 熱帯林の伐採を行うべきか、行わないべきか
 学習目標 熱帯林の伐採を行うべきか、行わないべきかについて自分の意見を組み立てる手順
 1 課題を解決するために適切な資料を収集する。
 2 収集した資料を読み取る。
 3 自分の考えをまとめる。
 4 考えの根拠となる理由づけをまとめる。
 5 理由づけに適合した資料を用意する。

自分の意見を主張する際の留意点

① 結論-自分の意見をまとめる。根拠として理由づけをした自分の考えをまとめる。
 ② 理由-結論を支持する理由をまとめる。収集した資料から適切な資料を読み取る。
 ③ 理由づけ-結論と理由を結びつける理由づけをまとめる。

「事実」 → 「理由づけ」 → 「結論」

図4 活用シートβ



自分の意見を組み立てる場合、次のような手順で考えてみましょう。

考える手順 ↓

1	課題を解決するために適切な資料を収集する。 *地図、統計(表・グラフ)、文獻、インターネットなどを使って資料を収集しましょう。
2	収集した資料を読み取る。 *収集した資料から地帯的な事実を読み取りましょう。
3	自分の考えをまとめる。 *資料から読み取った内容をもとに考えをまとめましょう。
4	考えの根拠となる理由づけをまとめる。 *「なぜそのように考えるのか」についてまとめましょう。
5	理由づけに適合した資料を用意する。 *理由づけの根拠となる資料を選びましょう。

これまでの学習を通して「熱帯林の伐採を行うべきか、行わないべきか」について、あなたの意見を述べなさい。

理由づけに使用した資料
活用シートα-2、活用カード2

私は、アマゾンの熱帯林を伐採しないほうがいいと思います。理由は、アマゾンの熱帯林は、たくさんのCO₂を吸収してくれています。それは地球全体のCO₂を吸収して地球温暖化の進行をやわらげるために必要なのではないでしょうか。しかし、人間は大量の木材を必要としています。特に日本は昔から木に頼って生活してきました。でも、いくら木材が必要とはいえ、住んでいる地球が、地球温暖化になって異常気象が続き、やがては「木」の路の上にはありません。やはり、アマゾンの熱帯林の伐採量を減らし、減らなければならぬと思います。木の代わりに他の資源を主に使ったりすれば、生活に支障はないと思います。アマゾンで人の生活が盛んなので、焼畑農業はたくさん、他にたくさん経済を創出する産業がたくさんあるから木を伐採しないと思います。

図5 活用シート使用前

「熱帯林の伐採を行うべきか、行わないべきか」についての交換活動を通して考えたあなたの最終的な意見を述べなさい。

理由づけに使用した資料
活用シートα-2
学習目標-自分の考えをまとめた意見

「アマゾン熱帯林の伐採」の理由と、焼畑農業のしくみ

私は熱帯林の伐採は環境にはいいと思うから、してもいいと思います。なぜなら、経済成長しているアマゾンにして、焼畑農業は、モノカルチャー経済から抜け出すために必要なのだからです。でも、焼畑農業は、伝統的な方法でやればいいと思います。そうすれば、ローテーションで、熱帯林もあと減らさず、アマゾンの経済も、アマゾンで下から上へ、アマゾンで下から上へ、モノカルチャー経済から抜け出すためにいいと思います。それに、アマゾンは、鉱産資源も豊富なので、農業だけじゃなく、他にもたくさん経済を創出させることができる方法がたくさんあると思うから、多少、焼畑農業の作物が減っても大丈夫だと思います。以上のことから、アマゾンの熱帯林は、木を再生することも考え、アマゾンの経済を豊かにしてあげたいから、木を伐採してもいいと思います。

図6 活用シート使用后

ワークシート（図5・図6）に書かれているように、「熱帯林の伐採をしないほうがよい」という意見から「環境に配慮するならば伐採してもよい」という意見に修正している。その根拠になっているのは、活用シートによる学習であり、「焼畑農業の在り方を環境面と経済面から考察し、その両立を図った開発を進めるべきだ。」という考えに変わっていったと考えている。

② 数学科

これまでの学習を振り返り、3年間を通して「資料の活用」で学習した知識等を整理して確認するために、生徒自身に活用シートα（図7）を作成させた。この活用シートは、資料の傾向を捉えて説明する学習活動の中で、資料の整理の仕方やよりよいまとめ方を考えるときなどに活用することができた。

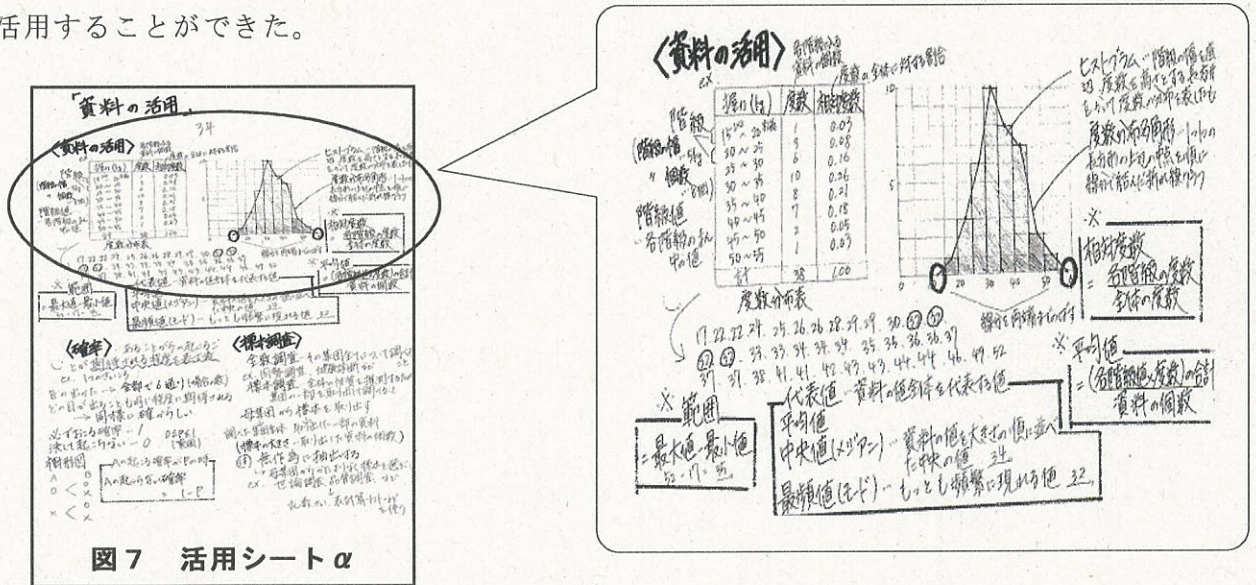


図7 活用シートα

(3) 言語活動の構造化に即したワークシートの工夫

全ての教科に共通した「言語活動の構造化」の流れを生徒に意識させるために、各教科で使用するワークシートを構造化の流れに即して作成するようにした。また、このようなワークシートを用いることで、B, C, E, Fの言語活動が充実するとともに、生徒自身が思考・判断の過程や変化を確認・評価できるようにした（図8）。

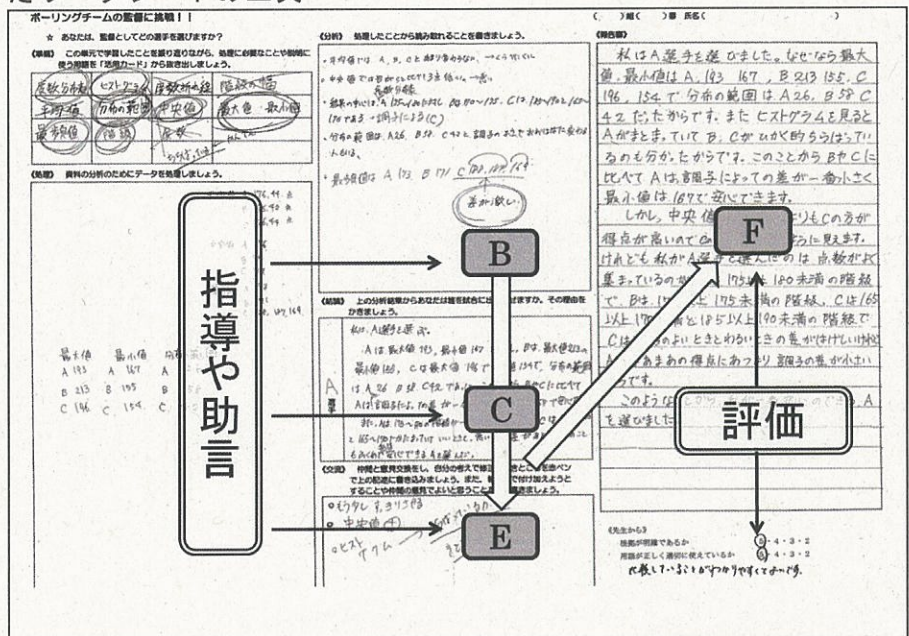


図8 ワークシートの例 (数学科)

(4) 学びの振り返り

生徒に「学びの振り返り」をさせることで、課題に直面した時の課題解決過程等を再認識させることができる。また、解決への見通しが持てるようになることから、自ら解決しようとする意欲も向上する。そこで、言語活動の構造化を図った授業、もしくはそれらを含めた一連の単元（題材）において、生徒一人一人が思考・判断・表現した過程を顧み、その過程を整理し、自らの思考・判断・表現の変容及びその理由を確認するといった活動を行い、どのような力を習得したのか自己認識させた(図9)。

あなたの考えの中に活用した視点を見つけ、用いたものに○を書きましよう。

視点	定型文(例)	①1	①2
分析・解釈	結論→理由・根拠 ○○の結果から□□が考えられます。その理由は△△だからです。		○
	理由・根拠→結論 ○○の結果から△△といえます。したがって□□であると考えます。		○
比較	○○と比べて、差が見られる点は△△です。(差異点)		
	○○と比べて、違う点は△△です。(相違点)		
	○○と比べて、同じ点は□□です。(共通点)		
関係付け	○○と比べて、よく似ている点は□□です。(類似点)		
	○○が大きくなると、□□も大きくなります。		
条件制御	○○について条件に目を向けながら調べると、○○と□□との関係は△△といえます。		
推論1	○○という結果から、いつも□□のようになるのです。		
推論2	○○から□□という問題を△△のように説明できます。		○

先生から
既に交わっていたこと、実験結果を整理しながら考えをまとめることができずした。自分の考えをわかりやすく発信することを意識して学習ができましたね。

(○) ①1 (○) ①2 (○) ①3 (○) ①4 (○) ①5 (○) ①6 (○) ①7 (○) ①8 (○) ①9 (○) ①10 (○) ①11 (○) ①12 (○) ①13 (○) ①14 (○) ①15 (○) ①16 (○) ①17 (○) ①18 (○) ①19 (○) ①20 (○) ①21 (○) ①22 (○) ①23 (○) ①24 (○) ①25 (○) ①26 (○) ①27 (○) ①28 (○) ①29 (○) ①30 (○) ①31 (○) ①32 (○) ①33 (○) ①34 (○) ①35 (○) ①36 (○) ①37 (○) ①38 (○) ①39 (○) ①40 (○) ①41 (○) ①42 (○) ①43 (○) ①44 (○) ①45 (○) ①46 (○) ①47 (○) ①48 (○) ①49 (○) ①50 (○) ①51 (○) ①52 (○) ①53 (○) ①54 (○) ①55 (○) ①56 (○) ①57 (○) ①58 (○) ①59 (○) ①60 (○) ①61 (○) ①62 (○) ①63 (○) ①64 (○) ①65 (○) ①66 (○) ①67 (○) ①68 (○) ①69 (○) ①70 (○) ①71 (○) ①72 (○) ①73 (○) ①74 (○) ①75 (○) ①76 (○) ①77 (○) ①78 (○) ①79 (○) ①80 (○) ①81 (○) ①82 (○) ①83 (○) ①84 (○) ①85 (○) ①86 (○) ①87 (○) ①88 (○) ①89 (○) ①90 (○) ①91 (○) ①92 (○) ①93 (○) ①94 (○) ①95 (○) ①96 (○) ①97 (○) ①98 (○) ①99 (○) ①100 (○) ①101 (○) ①102 (○) ①103 (○) ①104 (○) ①105 (○) ①106 (○) ①107 (○) ①108 (○) ①109 (○) ①110 (○) ①111 (○) ①112 (○) ①113 (○) ①114 (○) ①115 (○) ①116 (○) ①117 (○) ①118 (○) ①119 (○) ①120 (○) ①121 (○) ①122 (○) ①123 (○) ①124 (○) ①125 (○) ①126 (○) ①127 (○) ①128 (○) ①129 (○) ①130 (○) ①131 (○) ①132 (○) ①133 (○) ①134 (○) ①135 (○) ①136 (○) ①137 (○) ①138 (○) ①139 (○) ①140 (○) ①141 (○) ①142 (○) ①143 (○) ①144 (○) ①145 (○) ①146 (○) ①147 (○) ①148 (○) ①149 (○) ①150 (○) ①151 (○) ①152 (○) ①153 (○) ①154 (○) ①155 (○) ①156 (○) ①157 (○) ①158 (○) ①159 (○) ①160 (○) ①161 (○) ①162 (○) ①163 (○) ①164 (○) ①165 (○) ①166 (○) ①167 (○) ①168 (○) ①169 (○) ①170 (○) ①171 (○) ①172 (○) ①173 (○) ①174 (○) ①175 (○) ①176 (○) ①177 (○) ①178 (○) ①179 (○) ①180 (○) ①181 (○) ①182 (○) ①183 (○) ①184 (○) ①185 (○) ①186 (○) ①187 (○) ①188 (○) ①189 (○) ①190 (○) ①191 (○) ①192 (○) ①193 (○) ①194 (○) ①195 (○) ①196 (○) ①197 (○) ①198 (○) ①199 (○) ①200 (○) ①201 (○) ①202 (○) ①203 (○) ①204 (○) ①205 (○) ①206 (○) ①207 (○) ①208 (○) ①209 (○) ①210 (○) ①211 (○) ①212 (○) ①213 (○) ①214 (○) ①215 (○) ①216 (○) ①217 (○) ①218 (○) ①219 (○) ①220 (○) ①221 (○) ①222 (○) ①223 (○) ①224 (○) ①225 (○) ①226 (○) ①227 (○) ①228 (○) ①229 (○) ①230 (○) ①231 (○) ①232 (○) ①233 (○) ①234 (○) ①235 (○) ①236 (○) ①237 (○) ①238 (○) ①239 (○) ①240 (○) ①241 (○) ①242 (○) ①243 (○) ①244 (○) ①245 (○) ①246 (○) ①247 (○) ①248 (○) ①249 (○) ①250 (○) ①251 (○) ①252 (○) ①253 (○) ①254 (○) ①255 (○) ①256 (○) ①257 (○) ①258 (○) ①259 (○) ①260 (○) ①261 (○) ①262 (○) ①263 (○) ①264 (○) ①265 (○) ①266 (○) ①267 (○) ①268 (○) ①269 (○) ①270 (○) ①271 (○) ①272 (○) ①273 (○) ①274 (○) ①275 (○) ①276 (○) ①277 (○) ①278 (○) ①279 (○) ①280 (○) ①281 (○) ①282 (○) ①283 (○) ①284 (○) ①285 (○) ①286 (○) ①287 (○) ①288 (○) ①289 (○) ①290 (○) ①291 (○) ①292 (○) ①293 (○) ①294 (○) ①295 (○) ①296 (○) ①297 (○) ①298 (○) ①299 (○) ①300 (○) ①301 (○) ①302 (○) ①303 (○) ①304 (○) ①305 (○) ①306 (○) ①307 (○) ①308 (○) ①309 (○) ①310 (○) ①311 (○) ①312 (○) ①313 (○) ①314 (○) ①315 (○) ①316 (○) ①317 (○) ①318 (○) ①319 (○) ①320 (○) ①321 (○) ①322 (○) ①323 (○) ①324 (○) ①325 (○) ①326 (○) ①327 (○) ①328 (○) ①329 (○) ①330 (○) ①331 (○) ①332 (○) ①333 (○) ①334 (○) ①335 (○) ①336 (○) ①337 (○) ①338 (○) ①339 (○) ①340 (○) ①341 (○) ①342 (○) ①343 (○) ①344 (○) ①345 (○) ①346 (○) ①347 (○) ①348 (○) ①349 (○) ①350 (○) ①351 (○) ①352 (○) ①353 (○) ①354 (○) ①355 (○) ①356 (○) ①357 (○) ①358 (○) ①359 (○) ①360 (○) ①361 (○) ①362 (○) ①363 (○) ①364 (○) ①365 (○) ①366 (○) ①367 (○) ①368 (○) ①369 (○) ①370 (○) ①371 (○) ①372 (○) ①373 (○) ①374 (○) ①375 (○) ①376 (○) ①377 (○) ①378 (○) ①379 (○) ①380 (○) ①381 (○) ①382 (○) ①383 (○) ①384 (○) ①385 (○) ①386 (○) ①387 (○) ①388 (○) ①389 (○) ①390 (○) ①391 (○) ①392 (○) ①393 (○) ①394 (○) ①395 (○) ①396 (○) ①397 (○) ①398 (○) ①399 (○) ①400 (○) ①401 (○) ①402 (○) ①403 (○) ①404 (○) ①405 (○) ①406 (○) ①407 (○) ①408 (○) ①409 (○) ①410 (○) ①411 (○) ①412 (○) ①413 (○) ①414 (○) ①415 (○) ①416 (○) ①417 (○) ①418 (○) ①419 (○) ①420 (○) ①421 (○) ①422 (○) ①423 (○) ①424 (○) ①425 (○) ①426 (○) ①427 (○) ①428 (○) ①429 (○) ①430 (○) ①431 (○) ①432 (○) ①433 (○) ①434 (○) ①435 (○) ①436 (○) ①437 (○) ①438 (○) ①439 (○) ①440 (○) ①441 (○) ①442 (○) ①443 (○) ①444 (○) ①445 (○) ①446 (○) ①447 (○) ①448 (○) ①449 (○) ①450 (○) ①451 (○) ①452 (○) ①453 (○) ①454 (○) ①455 (○) ①456 (○) ①457 (○) ①458 (○) ①459 (○) ①460 (○) ①461 (○) ①462 (○) ①463 (○) ①464 (○) ①465 (○) ①466 (○) ①467 (○) ①468 (○) ①469 (○) ①470 (○) ①471 (○) ①472 (○) ①473 (○) ①474 (○) ①475 (○) ①476 (○) ①477 (○) ①478 (○) ①479 (○) ①480 (○) ①481 (○) ①482 (○) ①483 (○) ①484 (○) ①485 (○) ①486 (○) ①487 (○) ①488 (○) ①489 (○) ①490 (○) ①491 (○) ①492 (○) ①493 (○) ①494 (○) ①495 (○) ①496 (○) ①497 (○) ①498 (○) ①499 (○) ①500 (○) ①501 (○) ①502 (○) ①503 (○) ①504 (○) ①505 (○) ①506 (○) ①507 (○) ①508 (○) ①509 (○) ①510 (○) ①511 (○) ①512 (○) ①513 (○) ①514 (○) ①515 (○) ①516 (○) ①517 (○) ①518 (○) ①519 (○) ①520 (○) ①521 (○) ①522 (○) ①523 (○) ①524 (○) ①525 (○) ①526 (○) ①527 (○) ①528 (○) ①529 (○) ①530 (○) ①531 (○) ①532 (○) ①533 (○) ①534 (○) ①535 (○) ①536 (○) ①537 (○) ①538 (○) ①539 (○) ①540 (○) ①541 (○) ①542 (○) ①543 (○) ①544 (○) ①545 (○) ①546 (○) ①547 (○) ①548 (○) ①549 (○) ①550 (○) ①551 (○) ①552 (○) ①553 (○) ①554 (○) ①555 (○) ①556 (○) ①557 (○) ①558 (○) ①559 (○) ①560 (○) ①561 (○) ①562 (○) ①563 (○) ①564 (○) ①565 (○) ①566 (○) ①567 (○) ①568 (○) ①569 (○) ①570 (○) ①571 (○) ①572 (○) ①573 (○) ①574 (○) ①575 (○) ①576 (○) ①577 (○) ①578 (○) ①579 (○) ①580 (○) ①581 (○) ①582 (○) ①583 (○) ①584 (○) ①585 (○) ①586 (○) ①587 (○) ①588 (○) ①589 (○) ①590 (○) ①591 (○) ①592 (○) ①593 (○) ①594 (○) ①595 (○) ①596 (○) ①597 (○) ①598 (○) ①599 (○) ①600 (○) ①601 (○) ①602 (○) ①603 (○) ①604 (○) ①605 (○) ①606 (○) ①607 (○) ①608 (○) ①609 (○) ①610 (○) ①611 (○) ①612 (○) ①613 (○) ①614 (○) ①615 (○) ①616 (○) ①617 (○) ①618 (○) ①619 (○) ①620 (○) ①621 (○) ①622 (○) ①623 (○) ①624 (○) ①625 (○) ①626 (○) ①627 (○) ①628 (○) ①629 (○) ①630 (○) ①631 (○) ①632 (○) ①633 (○) ①634 (○) ①635 (○) ①636 (○) ①637 (○) ①638 (○) ①639 (○) ①640 (○) ①641 (○) ①642 (○) ①643 (○) ①644 (○) ①645 (○) ①646 (○) ①647 (○) ①648 (○) ①649 (○) ①650 (○) ①651 (○) ①652 (○) ①653 (○) ①654 (○) ①655 (○) ①656 (○) ①657 (○) ①658 (○) ①659 (○) ①660 (○) ①661 (○) ①662 (○) ①663 (○) ①664 (○) ①665 (○) ①666 (○) ①667 (○) ①668 (○) ①669 (○) ①670 (○) ①671 (○) ①672 (○) ①673 (○) ①674 (○) ①675 (○) ①676 (○) ①677 (○) ①678 (○) ①679 (○) ①680 (○) ①681 (○) ①682 (○) ①683 (○) ①684 (○) ①685 (○) ①686 (○) ①687 (○) ①688 (○) ①689 (○) ①690 (○) ①691 (○) ①692 (○) ①693 (○) ①694 (○) ①695 (○) ①696 (○) ①697 (○) ①698 (○) ①699 (○) ①700 (○) ①701 (○) ①702 (○) ①703 (○) ①704 (○) ①705 (○) ①706 (○) ①707 (○) ①708 (○) ①709 (○) ①710 (○) ①711 (○) ①712 (○) ①713 (○) ①714 (○) ①715 (○) ①716 (○) ①717 (○) ①718 (○) ①719 (○) ①720 (○) ①721 (○) ①722 (○) ①723 (○) ①724 (○) ①725 (○) ①726 (○) ①727 (○) ①728 (○) ①729 (○) ①730 (○) ①731 (○) ①732 (○) ①733 (○) ①734 (○) ①735 (○) ①736 (○) ①737 (○) ①738 (○) ①739 (○) ①740 (○) ①741 (○) ①742 (○) ①743 (○) ①744 (○) ①745 (○) ①746 (○) ①747 (○) ①748 (○) ①749 (○) ①750 (○) ①751 (○) ①752 (○) ①753 (○) ①754 (○) ①755 (○) ①756 (○) ①757 (○) ①758 (○) ①759 (○) ①760 (○) ①761 (○) ①762 (○) ①763 (○) ①764 (○) ①765 (○) ①766 (○) ①767 (○) ①768 (○) ①769 (○) ①770 (○) ①771 (○) ①772 (○) ①773 (○) ①774 (○) ①775 (○) ①776 (○) ①777 (○) ①778 (○) ①779 (○) ①780 (○) ①781 (○) ①782 (○) ①783 (○) ①784 (○) ①785 (○) ①786 (○) ①787 (○) ①788 (○) ①789 (○) ①790 (○) ①791 (○) ①792 (○) ①793 (○) ①794 (○) ①795 (○) ①796 (○) ①797 (○) ①798 (○) ①799 (○) ①800 (○) ①801 (○) ①802 (○) ①803 (○) ①804 (○) ①805 (○) ①806 (○) ①807 (○) ①808 (○) ①809 (○) ①810 (○) ①811 (○) ①812 (○) ①813 (○) ①814 (○) ①815 (○) ①816 (○) ①817 (○) ①818 (○) ①819 (○) ①820 (○) ①821 (○) ①822 (○) ①823 (○) ①824 (○) ①825 (○) ①826 (○) ①827 (○) ①828 (○) ①829 (○) ①830 (○) ①831 (○) ①832 (○) ①833 (○) ①834 (○) ①835 (○) ①836 (○) ①837 (○) ①838 (○) ①839 (○) ①840 (○) ①841 (○) ①842 (○) ①843 (○) ①844 (○) ①845 (○) ①846 (○) ①847 (○) ①848 (○) ①849 (○) ①850 (○) ①851 (○) ①852 (○) ①853 (○) ①854 (○) ①855 (○) ①856 (○) ①857 (○) ①858 (○) ①859 (○) ①860 (○) ①861 (○) ①862 (○) ①863 (○) ①864 (○) ①865 (○) ①866 (○) ①867 (○) ①868 (○) ①869 (○) ①870 (○) ①871 (○) ①872 (○) ①873 (○) ①874 (○) ①875 (○) ①876 (○) ①877 (○) ①878 (○) ①879 (○) ①880 (○) ①881 (○) ①882 (○) ①883 (○) ①884 (○) ①885 (○) ①886 (○) ①887 (○) ①888 (○) ①889 (○) ①890 (○) ①891 (○) ①892 (○) ①893 (○) ①894 (○) ①895 (○) ①896 (○) ①897 (○) ①898 (○) ①899 (○) ①900 (○) ①901 (○) ①902 (○) ①903 (○) ①904 (○) ①905 (○) ①906 (○) ①907 (○) ①908 (○) ①909 (○) ①910 (○) ①911 (○) ①912 (○) ①913 (○) ①914 (○) ①915 (○) ①916 (○) ①917 (○) ①918 (○) ①919 (○) ①920 (○) ①921 (○) ①922 (○) ①923 (○) ①924 (○) ①925 (○) ①926 (○) ①927 (○) ①928 (○) ①929 (○) ①930 (○) ①931 (○) ①932 (○) ①933 (○) ①934 (○) ①935 (○) ①936 (○) ①937 (○) ①938 (○) ①939 (○) ①940 (○) ①941 (○) ①942 (○) ①943 (○) ①944 (○) ①945 (○) ①946 (○) ①947 (○) ①948 (○) ①949 (○) ①950 (○) ①951 (○) ①952 (○) ①953 (○) ①954 (○) ①955 (○) ①956 (○) ①957 (○) ①958 (○) ①959 (○) ①960 (○) ①961 (○) ①962 (○) ①963 (○) ①964 (○) ①965 (○) ①966 (○) ①967 (○) ①968 (○) ①969 (○) ①970 (○) ①971 (○) ①972 (○) ①973 (○) ①974 (○) ①975 (○) ①976 (○) ①977 (○) ①978 (○) ①979 (○) ①980 (○) ①981 (○) ①982 (○) ①983 (○) ①984 (○) ①985 (○) ①986 (○) ①987 (○) ①988 (○) ①989 (○) ①990 (○) ①991 (○) ①992 (○) ①993 (○) ①994 (○) ①995 (○) ①996 (○) ①997 (○) ①998 (○) ①999 (○) ①1000 (○)

その他(インシット)をかか

学習のはじめと終わりを比較して、どのようなことを学びましたか
マーカーが役に分断されることには、実際に実験してみるとその理解できました。自分の言いたい結論は、どのよう
に根拠を組んだかよくに伝わるのかということが学べたと思います。

自己評価
A 自分の考えを裏付ける理由や根拠をいくつかあげて、結論がいた。 B 自分の考えを裏付ける理由や根拠を1つあげて、結論がいた。 C 自分の考えを裏付ける理由や根拠がはっきりしないが、自分の考えは持てた。

どのような力を習得したのか自己認識

図9 「学びの振り返り」の例(理科)

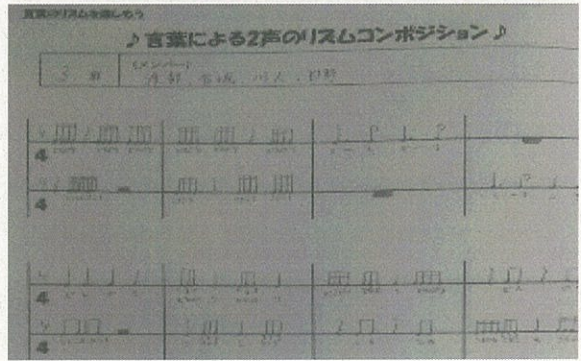
成果

生徒の思考力等を高める教材教具・指導方法を多く開発することができた。前述したほかにも「理：安全な水素爆発実験」「理：小麦粉を使った溶岩モデル」「数：正多面体模型」「数：標本調査」「国：防災機器の説明書づくり」「美：立体切り絵」「英：デジタル教科書の活用」「体：ホワイトボードミーティング」「音：ことばによる二声のリズムコンポジション」などを挙げるができる。

課題

各教室に電子黒板が設置されていないなど、ICT環境が十分ではないため、ICTを活用した教材・教具の開発が進んでいない。

なお、開発には、時間・労力・財源が伴うため、大学との共同研究により進めることが望まれる。



2 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

日々の授業の中で、言語活動を充実させたことにより、生徒が主体的に考えをまとめたり、深めたりする能力が高まり、昨年度に比べ、コンクール等において全国レベルの表彰を多く得ることができた(表5)。

表5 平成25年度における全国レベルの表彰一覧表

番号	氏名	学年	性別	大会名等	大会規模	受賞内容等	備 考
1	多田 里穂	3-4	女	第38回「小さな親切」作文コンクール	全国	審査員特別賞	応募総数36,032編の中でベスト8に該当。タイトルは「あめ玉とおばあちゃん」
2	酒井 宏規	3-2	男	第4回 いっしょに読もう！新聞コンクール	全国	優秀賞	応募総数32,774編の中で最優秀賞5点につぐ優秀賞6点の中に選ばれた。タイトルは「スマホ向けアプリLINEに潜む危険性」(徳島新聞 2013年5月20日付朝刊掲載)
3	小谷 侑加	2-3	女	第4回 いっしょに読もう！新聞コンクール	全国	奨励賞	応募総数32,774編の中で最優秀賞5点、優秀賞10点につぐ奨励賞78点の中に選ばれた。タイトルは「ハンセン病基本法5年 療養所園児と二人三脚」(朝日新聞 2013年6月21日付朝刊掲載)
4	野口 綾香	2-4	女	第4回 いっしょに読もう！新聞コンクール	全国	奨励賞	応募総数32,774編の中で最優秀賞5点、優秀賞10点につぐ奨励賞78点の中に選ばれた。タイトルは「幼稚園 体験入園前に」(読売新聞 2013年7月16日付朝刊掲載)
5	荒井 誉麗	2-1	男	第16回技術教育創造の世界「エネルギー利用」技術作品コンテスト 中学生の部	全国	文部科学大臣賞 電気学会会長賞 W受賞 県議会表彰	雨水を集めて水力発電し、防災ラジオなどを鳴らすとともに、雨水を濾過して活用できるようにした装置を開発。作品名は「濾一過ルRadio(ローカルラジオ)」(徳島新聞 2014年1月8日付朝刊掲載)
6	加藤 彰人	2-2	男	第16回技術教育創造の世界「エネルギー利用」技術作品コンテスト 中学生の部	全国	中学生の部 大阪科学技術センター会長賞	トイレトペーパーの減り具合が一目でわかるように、トイレトペーパーホルダーにLEDを組み込んだ装置を体験をもとに開発。作品名は「神(ペーパー)のおかげ」(徳島新聞 2014年1月8日付朝刊掲載)
7	瀬嶋 来実	2-2	女	第51回中学生作文コンクール	全国	都道府県別生命保険センター賞 1等	応募総数3,071編中上位8名に次ぐ賞を受賞。タイトルは「生きる希望」(徳島新聞 2013年11月13日付朝刊掲載)
8	井村 華子	1-1	女	第14回全国中学生創造ものづくり教育フェア「豊かな生活を創るアイデアバッグ」コンクール	全国	厚生労働大臣賞 第2席	中学生のものづくり競技会のアイデアバッグを製作する部門に中四国代表として参加し、当日4時間かけて作品を完成させ第2席に入賞。(徳島新聞 2014年2月9日付朝刊掲載)
9	山下瑞生・ 山下純平・ 青木俊介・ 山岡伍甫・ 齋藤晴生	1学年	男	科学の甲子園ジュニア全国大会	全国	優良賞	科学技術振興機構が主催し、科学的な思考力や問題解決能力、コミュニケーションなどを伸ばす目的で本年度から開催。県予選優勝。(徳島新聞2014年1月9日付夕刊掲載)

また、保護者対象学校評価アンケート(別添1-1・2-①)においては、質問「先生は授業をわかりやすくていねいに教えている」に対する「よく当てはまる・当てはまる」の回答が94.9%(昨年度90.8%)、質問「先生は楽しい授業となるよう工夫している」に対する「よく当てはまる・当てはまる」の回答が91.5%(昨年度89.4%)、質問「先生は生徒の考えをまとめたり、発表したり、生徒同士で協議したりする学習を多く取り入れている」に対する「よく当てはまる・当てはまる」の回答が94.7%、質問「生徒は自ら学ぼうという意欲を持っている」に対する「よく当てはまる・当てはまる」の回答が91.8%(昨年度86.6%)という結果となり、目標「楽しい学校」に対する取組に関して多くの生徒・保護者が理解を示している。

さらに、平成25年度全国学力・学習状況調査(別添1-1・2-②③④)において、次のとお

り比較的高い学力結果を得ている。

- 国語（A：主として知識を問う問題）の平均正答率は 92.3 %（全国国立平均 90.5 %），国語（B：主として活用を問う問題）の平均正答率は 87.6 %（全国国立平均 86.4 %）といずれも全国国立平均より高い。
- 数学（A：主として知識を問う問題）の平均正答率は 90.7 %（全国国立平均 84.9 %），数学（B：主として活用を問う問題）の平均正答率は 81.0 %（全国国立平均 72.0 %）といずれも全国国立平均より高い。

【改善点】

前述した取組にも関わらず「自分とは異なる意見の人と適切にコミュニケーションし、よりよい解決策を探ることが苦手」「課題意識を常に持ち、自ら課題を見つけて、その課題解決に粘り強く取り組む根気強さや探求心が不十分」といった生徒がみられる。

そこで、これまでの取組をさらに充実・発展させ、将来、生徒一人一人が社会人として主体的に生きるために欠かせない思考力等を、各教科が連携して、効果的・効率的に指導する取組の実践研究を深めている。

このような研究の深化といったソフト面に加えて、1学級当たりの生徒数減（35人学級の実現）、ティームティーチング・習熟度別指導が可能な人的配置、先進的なICT機器による教材教具の開発といったハード面の環境整備が重要となっている。今後、大学との共同研究を進め、こうした環境を整えていくことにより、生徒一人一人の状況を把握し、十分ではない生徒への個別指導や生徒同士の学び合いを徹底し、生徒一人一人にとって学ぶ喜びに満ちた「楽しい学校」づくりを強力に推し進めたい。

3 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階中の「A 十分達成されている」と判断する。

- | | |
|---------|----------------------|
| 自己評価の基準 | A 十分達成されている |
| | B 達成されている |
| | C 取り組まれているが、成果が十分でない |
| | D 取り組みが不十分である |

* 評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

評価項目 2 いじめの撲滅

保護者と教師，教師と生徒，生徒間において，相手の状況（思い）を踏まえた適切なコミュニケーションを行うことで信頼関係を築き，学校を安心して過ごせる場にする。

1 観点ごとの分析

観点 2-1 コミュニケーション力を高める活動の充実（生徒重点目標：伝わる言動）
相手の状況を踏まえて適切にコミュニケーションする力を高めることができたか。

(1) 交流活動の充実

前述した「言語活動の構造化」の C・F の場面において，交流活動を設定し，指導者と生徒，生徒同士の関わり合いを通して，個人の思考・判断・表現を共通認識し，共通点や相違点を明らかにして

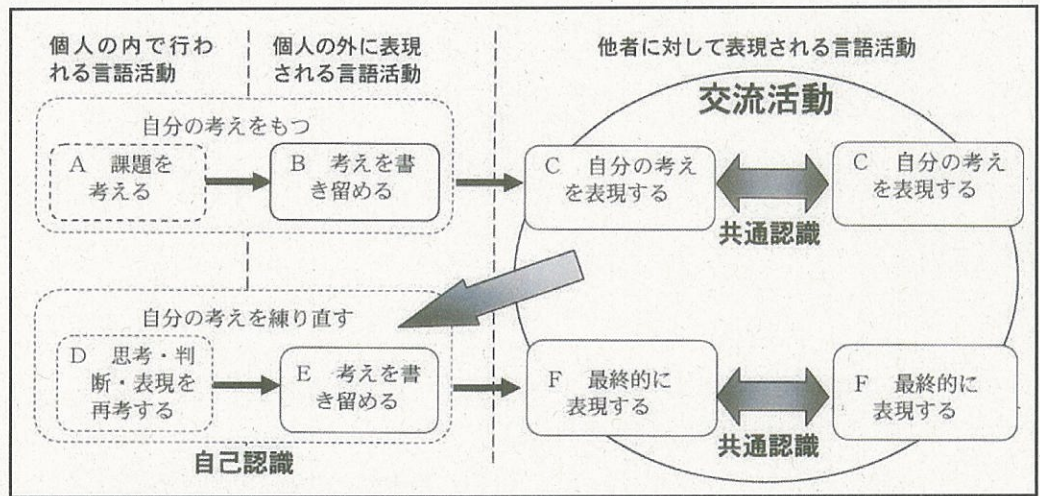


図 10 「言語活動の構造化」における交流活動

いる。この交流活動を通して，円滑な人間関係に欠かすことのできない「生徒が互いに意見を出し合い，問いかけ合い，説得し合うといったコミュニケーション力」を高めている（図 10）。

次に交流活動の実践例を示す（表 6）。

表 6 言語活動の構造化における交流活動の様子

教科	工夫	交流活動の様子	効果
数学科 「標本調査」	活動時の班編成を 2 人から 4 人に，4 人から全体に変化させた。		○ 班の構成を変化させることで，様々な見方や考え方を知ることができた。また，全体での交流活動により，重要な視点について共有することができた。

(2) N I E 教育（Newspaper in Education = 「エヌ・アイ・イー」）

本校は，NIE 実践指定校として，新聞を教材として活用する教育の実践研究を進めており，その中で，コミュニケーション力を高める活動を取り入れている。具体的な取組は「N I E 実

践報告書『情報を集め、考えを創る取り組み』（別添2-1-①）のとおりである。

成 果

- 12月11日に開催した3学年総合的な学習の時間「模擬県議会」においては、半日にわたって、多くの生徒が自分たちの政策を説明したり、質問に対して根拠を明らかにして回答したりすることができた。こうした取組はマスコミにも注目され、四国放送の番組に取り上げられた。
- 学校全体に落ち着いた雰囲気があり、校内で生徒間での言い争いや気まずいムードが見られなくなっている。
- 周りとの人間関係が保ちにくい不登校生徒Aが、クラスの人間関係を嫌がる様子が見られなくなった。また、まったく学校に来ることができていなかった不登校生徒Bが保健室登校できるようになった。



模擬県議会（四国放送にて報道）

課 題

- 成果で述べた以外の不登校生3名は、ほとんど登校することができていない。学校にこられない生徒に対するコミュニケーション力の育成及び不登校生が登校したときの周りの生徒及び職員の関わりが課題である。
- 適切なコミュニケーション力は、家庭教育の影響が大きい。学校だけでなく、家庭におけるはたらきかけができるよう、家庭教育の充実を図る必要がある。

観点2-2 いじめ調査の実施とその結果を踏まえた取組の充実
調査により現状を把握し、いじめを防止する取組を進めることができたか。

平成25年度 第3回 生活アンケート ※9月～12月（本日）までの期間で考え、回答してください。

質問項目	回 答
1. 話しかけたときに無視されたことがある。 ア よくある イ ときどきある ウ あまりない エ 全くない	0 0 0 0 ア イ ウ エ
2. 仲間に入れてもらえなかったことがある。 ア よくある イ ときどきある ウ あまりない エ 全くない	0 0 0 0 ア イ ウ エ
3. 友だちから悪口を言われたことがある。 ア よくある イ ときどきある ウ あまりない エ 全くない	0 0 0 0 ア イ ウ エ
4. 友だちから暴力（たたかれたり、けられたりなど）をふるわれたことがある。 ア よくある イ ときどきある ウ あまりない エ 全くない	0 0 0 0 ア イ ウ エ
5. 自分の持ち物がなくなったり、勝手に使われたり、壊されたりしたことがある。 ア よくある イ ときどきある ウ あまりない エ 全くない	0 0 0 0 ア イ ウ エ
6. インターネット上でいやがらせを受けたことがある。 ア はい イ いいえ	0 0 ア イ
7. 上記の1～6のようないじめは今も続いている。 ア はい イ いいえ	0 0 ア イ
8. 7の質問で「はい」と答えた人は、その内容を具体的に書いてください。 今もいじめが続いている人は、家族や先生など、身近にいる大人にすぐ相談してください。	

(1) 生活アンケートの実施

前頁に示すような生活アンケートを年3回実施（5月16日、7月8日、12月3日：無記名）し、本校におけるいじめの実態を把握した（別添2-2-①）。

この生活アンケートを契機として、生徒や保護者からいじめの相談が数件寄せられ、その一つ一つについて担任はもとより管理職・生徒指導主事を含む校内生徒指導組織による対応を行った。この対応の過程は次のとおりである。



生徒会挨拶運動における「いじめ撲滅」啓発

- ①申し出があった生徒（場合によって保護者）から、いじめの状況を聞き取る。
- ②加害生徒及び関わった生徒から状況を聞き取る。（ネットを使って多数に被害者のマイナスイメージを送信している場合、2週間近く対応する場合もあった。）
- ③加害生徒（場合によって関わった生徒）の保護者に状況を説明し、被害者の心情について理解を得るとともにいじめ防止への協力を求める。
- ④被害生徒と加害生徒（場合によって関わった生徒）の和解を図る。
- ⑤必要に応じて学級集団・学年集団・全校全体に指導する。

このように、1件のいじめを解決するのに多くの教員が何日も関わる対応を重ねた。また、⑤の段階では、次に示す資料等を用いて生徒及び保護者に啓発した。さらに、生徒会がいじめ撲滅宣言「なかよしの宣言」（写真参照）を公表し、生徒が主体となる取組が推進された（別添2-2-②）。

附属中学校の生徒のみなさんへ（同様の文書を保護者宛にも発送しています）

鳴門教育大学附属中学校長

6月21日、いじめ防止対策推進法が成立し、第4条に「いじめの禁止（児童等はいじめを行ってはならない）」が明記されています。

本校は、この法律に基づき、いじめの防止及び早期発見に取り組むとともに、いじめを受けていると思われるときは、適切かつ迅速に対処します。

重要ポイント

- 同じ学校に在籍するなど一定の人間関係にある児童や生徒による行為で、**心や身体の苦痛を感じている状態をいじめ**といいます。この法では、**インターネット上の中傷**（根拠のないことを言いふらして、他人の名誉を傷つけること）**もいじめ**と定義づけています。【第2条】
具体的には、無視、仲間はずし、物かくし、いたずら、悪口・かげ口、命令、金品要求、暴力（押す、小突く、叩く等を含む）、インターネット上のいやがらせ（例：掲示板・メール）などが挙げられます。
- **保護者は、子どもの教育について第一義的責任を有するものであって、その保護する生徒等がいじめを行うことがないように、規範意識を養うための指導などを行うよう努めなければなりません。**また、その保護する子どもがいじめを受けた場合は、適切にいじめから保護しなければなりません。【第9条】

- 学校におけるいじめを早期に発見するため、生徒等に対して定期的な調査その他の必要な措置を講じます。【第16条】
- いじめが犯罪行為と認められる際は警察に連絡して協力を得ながら対応します。重大被害の恐れがある場合は直ちに警察に通報します。【第23条】
※実名を挙げて中傷するのは名誉毀損(他人の名誉を傷つける行為)などの違法行為です。
- 学校に在籍する生徒等がいじめを行っている場合であって教育上必要があるときは、適切に、いじめを行っている生徒に懲戒(不正または不当な行為に対して制裁を加えるなどして、こらしめること)を加えます。【第25条】

本校においては、この法律に基づき、いじめは許されない人権侵害ととらえ、学校生活全般を通じて人権教育や規範意識を高める教育を進めるとともに、いじめ調査、面談、日記指導等とおしていじめの発見に努めます。

また、いじめを発見した場合には、適切かつ迅速に対処いたします。なお、犯罪行為と認められる場合には、警察等の関係機関と連携して対応するとともに、教育上必要があるときはいじめを行っている生徒に懲戒を加えます。

【参考資料】学校において生じる可能性がある犯罪行為等（※以下省略）

(2) Q-U調査の実施

前述したとおり、本年度取り組んだ生活アンケートの集計結果(別添2-2-①)及びその対応から「多くの生徒がいじめの問題に遭遇すること」「いじめに関わる被害者、加害者ともに言い分があり、当該生徒はもとより保護者の理解を得るのに時間がかかること」が明らかとなった。なお、このことは文部科学省国立教育政策研究所「いじめについて、正しく知り、正しく考え、正しく行動する。(平成25年7月)」に「中学校の場合で言えば、半年間で3割弱の生徒が『暴力を伴わないいじめ』の加害経験を、『軽くぶつかる・叩く・蹴る』を含めれば4割の生徒が加害経験を持つことがわかっています。」等、概ね同様の内容が記述されている。従って、いじめを見つけ加害者・被害者を指導することは欠かせないが、このように多くの中学生がいじめの問題に遭遇することから、まず取り組むべきことは「未然防止」であると確信した(別添2-2-②)。

そこで、本年度は、1・2年生のすべての生徒を対象にQ-U調査(<http://www.waseda.jp/sem-kawamura/about/outline/#>)を実施することで、クラスの生徒たちが自分たちの学級をどう感じているのか、自分の教室内での立ち位置をどう認識しているのかなど、学級集団の状態を把握した。そして、その結果をもとに、より団結したクラスを作るにはどうしたら良いのか、いじめの芽を摘み取るにはどうしたら良いのかといった手だてを学年団で検討し、12月の三者面談等を通じて生徒一人一人に応じた指導を保護者を交えて行った。

成 果

- 生活アンケートを実施することで、本校におけるいじめの実態を把握することができた。また、このアンケートを契機に学校への相談が寄せられたことで、いじめの発見と解決につながった。
- 生徒にいじめがあることを認識させることで、生徒会が「いじめ撲滅 なかよしの宣言」

を公表するなど「いじめ防止」に対する取組が主体的になった。

- 生活アンケートの結果から、部活動や休み時間における生徒との関わりを重視するなど、教員がいじめを見抜き、深刻化する前に指導することを大切にするようになった。

課題

- 本校にみられる「悪口や陰口」「仲間外し」といったいじめは、加害者と被害者の双方に何らかの言い分がある。従って、「人を傷つける言動を避けなければいけない」という高い人権感覚に基づく指導が求められる。そのためには、時間をかけて生徒（場合によっては保護者にも）と話し合いを行わねばならず、その対応にかなりの時間と労力を要した。

2 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

生活アンケートの集計結果から、顕著ないじめ防止の効果はみられないが、「今もいじめが続いている」と回答した生徒が12月調査でもっとも少なくなっており、7月調査と比べて9人減っている。また、他の項目も減っている項目が多い。

これは、ラインによるいじめを解決するなど、生活アンケートを契機として、生徒から教員に訴えのあった数件のいじめを保護者を含めて粘り強く話し合いを続け、解決したことの成果である。

このほかにも、不登校生徒1名については、だんだんと改善傾向が見られ、12月現在で144日の授業日中96日出席し、多くの授業は教室で過ごすことができた。

また、保護者対象学校評価アンケートにおいては、質問「生徒はあいさつができています」に対する「よく当てはまる・当てはまる」の回答が92.3%（昨年度84.9%）と向上している。これは、生徒会役員がいじめ撲滅のために互いの人間関係を少しでもよくしようと朝の挨拶運動に力を入れた成果であろうと考えている。ほかにも、質問「家庭において相手の立場に配慮した言動を指導している」に対する「よく当てはまる・当てはまる」の回答が94.4%となっている。これは、前述したようないじめ防止に関する保護者啓発を行った成果であろうと考えている。

【改善点】

12月現在、不登校生徒が5名、悪口や陰口、無視等のいじめを訴える生徒が全校で25名いる。不登校生徒については、担任を中心にスクールカウンセラー及び保護者と連絡を密にして指導に当たっているが、今後、さらなる連携を図り、よりよい手だてを講じていく必要がある。また、いじめについては、その予防が重要であることから、本年度取り組んだ「生徒会を中心とした取組」「教員が生徒に関わる時間の確保」をさらに推進するとともに、道徳や学活における指導を充実させていく。

3 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目3 生徒と向き合う時間の確保

授業はもとより、生徒の自主活動である部活動や休み時間、ワークシート等においても、教師が関わったり、見守ったりする時間をできる限り確保し、生徒理解を深めるとともに指導に生かす。

1 観点ごとの分析

観点3-1 生徒との関わりを深める取組の充実

授業中の指導を充実させることができたか。部活動や休み時間、ワークシート等の関わりを通して生徒理解を深めることができたか。また、こうした生徒と関わる時間を生み出すために勤務負担を軽減できたか。

(1) 教員一人一人の授業力の向上（資質向上プログラムの実施）

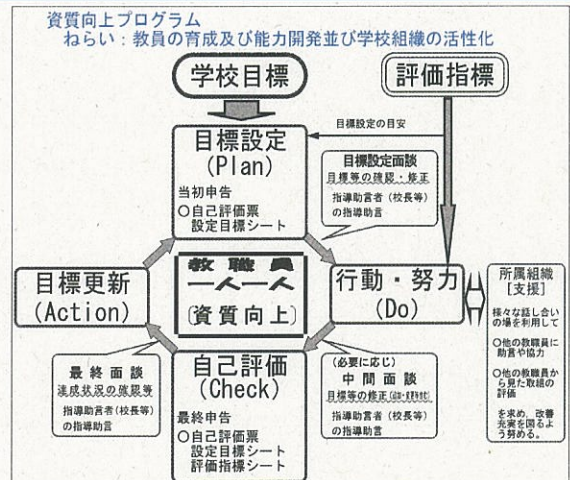
生徒との関わりを深める上で、まず取り組むべきは、日々の授業を充実させることである。日々の授業が生徒にとって魅力的であれば自然に教師と生徒の信頼関係が生まれ、よい関わりができるようになる。そのためには、一人一人の教員が授業改善に関する明確な目標を持ち、生徒にとって有意義な時間となるよう最善をつくすシステムが重要となる。そこで、本校では、教員の育成及び能力開発並びに学校組織の活性化をねらいとして、資質向上プログラム【右図】を実施している。

資質向上プログラムとは、年度当初に、教員一人一人が学校目標を踏まえて自己目標を設定し、校長等の指導助言や所属組織の支援を得て、その達成を図るとともに、年度末には、その「自己目標の達成状況」及び「評価指標と照らした職務遂行状況」を自己評価するプログラムである。

資質向上プログラムを実施することで、次の効果が期待でき、「生徒に対する授業の質の向上」につながると考えている。

- 各教職員の目標や課題の明確化
- 工夫を凝らした教育活動の充実
- 教職員の主体的・意欲的な取組の促進
- 職務遂行上、必要な能力の認識
- 教職員の指導・育成

特に、本年度は、学校の重点目標の一つに「楽しい学校」を掲げたことから、授業を充実させるための教材教具及び指導方法の工夫を引き出すことができた。



1 当初申告及び目標設定面談【年度当初から6月末まで】

自己の「目標及び方策」設定 + 評価指標確認

当初申告

- 所属する学校の学校目標（今年度の重点目標）を踏まえて実施対象者（教職員）一人一人が自己の目標及び方策を設定。その際、評価指標も目安として活用。
※この評価指標に基づき年度末に自己評価するの年度当初に必ず確認。

目標設定面談

- 指導助言者（校長等）は、目標及び方策について指導助言。

自己評価票
（設定目標シート）

2 目標達成に向けた取組及び指導助言【実施期間中】

- 目標の達成に向けた取組。【所属組織の支援】
- 指導助言者は、実施対象者の職務遂行状況全般を観察し、必要に応じて指導助言。

3 中間修正及び中間面談【必要に応じて実施】

中間修正

- 目標及び方策を修正（見直し）する必要がある場合に実施。

中間面談

- 指導助言者は、修正する内容に応じて指導助言。

自己評価票
（設定目標シート）

4 最終申告及び最終面談【1月から3月第1週まで】

目標及び方策に関する自己評価 + 評価指標と照らした自己評価

最終申告

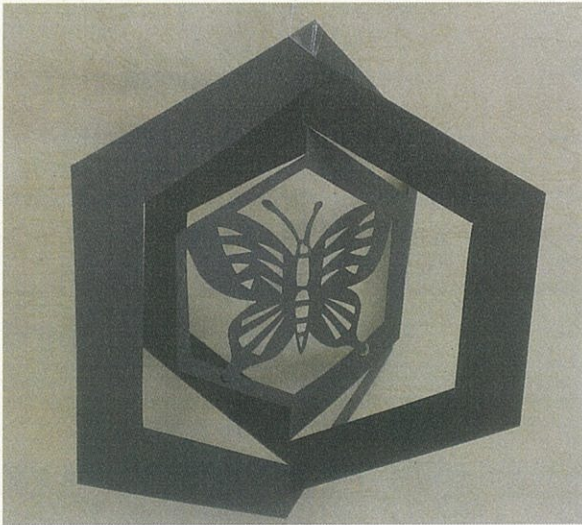
- 実施対象者一人一人が「目標及び方策の達成状況」並びに「評価指標と照らした職務遂行状況」を自己評価。

最終面談

- 指導助言者は、資質能力及び職務に対する意欲の向上を図るために、実施対象者の自己評価に基づき指導助言。

自己評価票
（設定目標シート）
（評価指標シート）

その例は、評価項目1に挙げたとおりであるが、加えて、この資質向上プログラムの実施が契機となって生み出された例を次に示す。



美術：立体切絵

独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばすために取り入れた。



理科：マグマと火山活動

マグマの種類によって火山の形が変わることを体験するために、小麦粉等を用いた実験を取り入れた。



全校鑑賞：能狂言

我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた伝統的な言語文化に親しみ、継承・発展させる態度を育てることができた。



2学年総合的な学習の時間：職場体験

事前指導として、挨拶、主体的な活動などを徹底したり、この学習を生かして本県の将来の姿を構想させる等、今までの職場体験学習をより充実させた。この一連の総合的な学習の時間の学びを26年度NIE全国大会徳島大会の公開授業内容としている。



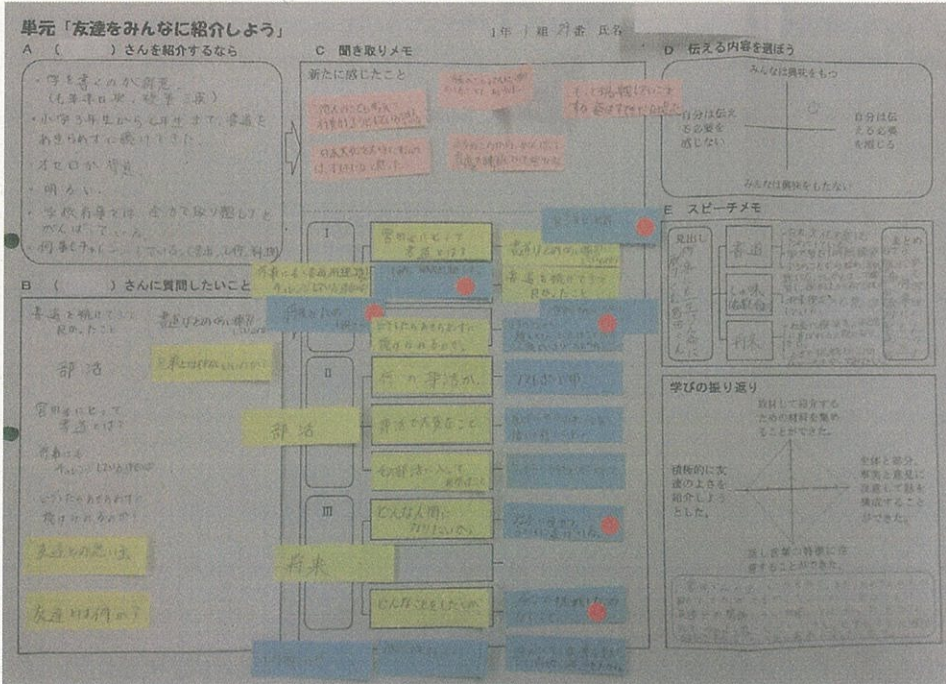
理科：目のしくみ

目のしくみをわかりやすく示すための教具を開発した。虫眼鏡がレンズにあたる。裏側にはトレーシングペーパーが貼られており、これが網膜にあたる。カメラのしくみにも使える。

(2) 部活動や休み時間、ワークシート等による関わり

年度当初に「緊急な対応等を除いて、放課後は必ず部活動の指導を行う。」「授業が継続しているときは、業間の休み時間、できるだけ生徒と関わる。」「昼食後の休み時間は学年担当教員の誰かが各該当学年階にて生徒に関わる。」を全教職員が共通理解し取り組んだ。

また、ワークシートについては、すべての教科において工夫を凝らし、教員が生徒の思考等を把握でき、フィードバックできるものを開発した。国語の例を次に示す。



国語のワークシート例 ： 単元「友だちをみんなに紹介しよう」

単元全体を通して生徒の思考過程が明示されるので、生徒自身が学びを振り返って自己評価できる。また、教師は、このワークシートをもとに生徒の学習目標の達成状況を随時把握し、適切に指導できる。

(3) 勤務負担の縮減

大学に開発を依頼したグループウェア①

学校評価教員用アンケート①

このアンケートに回答する 操作 設定

1. 本年度、資質向上プログラムが「楽しい授業」の開発（指導方法・教材教具の工夫改善）につながりましたか。

かなりつながった

4 (19%)

ややつながった

14 (67%)

あまりつながらなかった

3 (14%)

まったくつながらなかった

0 (0%)

合計: 21

2. 本年度、新しい指導法や教材教具を開発しましたか。

多く開発した

3 (14%)

いくつか開発した

10 (48%)

大学に開発を依頼したグループウェア②

① 学校事務の効率化

従来、本校では、各職員のスケジュールを教務担当者が把握し、紙媒体や黒板により共有していたので「担当に報告し、それをまとめ、紙媒体、黒板により周知」といった複雑な事務となっていた。また、校長室・事務室と職員室が隔てられていることから随時職員室の黒板を確認する必要があった。特に、長期休暇中は校外での業務が多くあるため、不便があった。

ほかにも、連絡事項等は、紙媒体で行うしかなかった。

そこで、本年度、学校事務を簡素化するために、連絡用掲示板、スケジュール、教職員アンケート、TODO等の機能をもつグループウェアの開発を鳴門教育大学情報基盤センターに作成いただいた。このグループウェアにより前述した事務がかなり軽減するとともに、自宅からも閲覧が可能となり、勤務場所を離れていくつかの業務を行うことも可能となった。

② 教育実習時間の縮減

従来、指導案作成はペンによる手書きを原則としていた。これは、文字を丁寧に書くことの重要性、実習生用パソコンの未整備、安易なコピーアンドペーストの防止などが理由であった。しかし、実習生が指導案作成にかなりの時間を要していることと、教育現場におけるICT活用が課題となっていることもあって、本年度、実習生のパソコン使用を許可した。

③ 教員の超過勤務内容の把握と効率化

本校に限らず中学校の勤務は次のようになるため、超勤は避けられず、この問題は新聞等においても取り上げられている。

- 登校時交通指導、遅刻指導、健康状態の把握といったことから始業時刻前の勤務がある。
- 空き時間は、宿題やワークシートの点検、テストの採点、評価（目標に準拠した評価となっていることから原則毎時間評価が必要）がある。また、学級担任は生徒との関わりを重視し、連絡帳（日記）等によるやりとりをすることが多い。

- 放課後は、ほぼ毎日部活動指導が約2時間加わる（本校は木曜日をノー部活デーとしているが職員会もしくは研究のための会議となることがほとんどである）。さらに、いじめ、不登校、非行、交通事故といった生徒指導上の問題対応（家庭訪問を伴うことが多い）が加わることがある。
- 上記の対応の後に、授業等のための教材研究を行う。時期によっては、修学旅行、卒業式、体育祭等の準備が加わる。
- 土・日のいずれか1日は、部活動の指導を行うことが多い。
こうした一般的な中学校業務の上に、本校は、教育研究（文部科学省指定校）、教育実習、本県教育会への貢献（教科研究会事務局担当、研究推進担当）等の業務が加わる。

そこで、管理職員が、遅くまで勤務している職員等に声をかけ、労をねぎらうとともに、その超勤内容を把握し、管理職員と当該教員等で少しでも効率化する方法はないか相談するようになった。この取組の結果、次に示すような手だてを講じることができた。

- 保護者向け文書など、教員が作成した書類の決裁において、問題点の指摘に止めることなく修正案を示すなどして事務を効率化した。
- グループウェア、メール等に自宅からアクセスできる方法を周知し、自宅で仕事できる手だてを講じた。
- 教員の心的負担軽減策として、生徒指導上の問題が発生した場合、担任だけが悩むことがないように、管理職をはじめとする組織対応体制を確立した。
- アンケート集計をグループウェアやエクセルの共有機能により行ったり、スキャナーを利用して効率的に行えるフリーソフトの活用法を関係職員に周知したりするなど、ICT活用によるアンケート集計の効率化を図った。

このような手だてに加え、学校全体の効率化を図るために会議時間の短縮を速やかに行う必要があると判断し、次のことに取り組んだ。

- 教員に勤務時間の縮減の重要性を周知し、議題を厳選するとともに要点をついた説明をはたらきかけた。
- 会議を進行する教頭・主幹教諭に会議の効率化を意識づけた。
- 管理職と担当が会議前に原案検討を行い、ある程度仕上がった内容を職員全体に図った。
- 会議時間は、原則、終了時間を定めた。

成 果

- 新しい指導法・教材教具等が数多く開発され、研究授業等を通して全教員で共通理解することができた。
- 放課後はもとより週休日等にも活動する部活動がほとんどであり、市大会、県大会で上位入賞が増えた。
- 前述したとおり「今もいじめが続いている」と訴える生徒、及び不登校生徒が減る傾向にある。
- 勤務負担を軽減するための様々なアイデアを生み出し実践することで、いくつかの業務を効率化することができた。

課 題

- 生徒一人一人に学ぶ楽しさを十分に味わせるためには、生徒の個性、ねらいの達成状況、意欲等を考慮して「生徒一人一人に応じた指導（個に応じた指導）」を進める必要がある。そのためには40人を一人の指導者で授業することに限界がある。

- 国際化・情報化・防災などの新しい課題に対応した教育を開発しなければならない中、いじめ・不登校・非行・虐待といった速やかに解決しなければならない日々の教育活動を抱えており、現状の教員組織・システムでの勤務負担の軽減策では対応しきれない。特に、週休日等の部活動の勤務負担は大きい（ただし、職員も生徒もやりがいを感じている者が多い）。

2 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

平成25年度教員対象学校評価アンケート（別添3-1-①）の結果において、質問「本年度、資質向上プログラムが楽しい授業の開発（指導方法・教材教具の工夫改善）につながりましたか」に対する「かなりできた・ややできた」の回答が85.7%であることから、ほとんどの教員が資質向上プログラムにより、楽しい授業の開発に取り組んでいる。また、質問「本年度、始業前、部活動、休み時間等において生徒に関わる時間を増やそうと努力しましたか」に対する「かなりできた・ややできた」の回答が95.2%、質問「本年度、始業前、部活動、休み時間等、授業以外に生徒に関わること（生徒と向き合う時間の確保）は、生徒理解を深めるために有効でしたか」に対する「かなり有効である・やや有効である」の回答が100%であることから、ほとんどの教員が生徒に関わる時間の確保に努力し、それが生徒理解を深めるために有効であったと考えている。ほかにも、目標としていた「学習と連絡」「ワークシート」「ノート」などの点検やICTを活用した業務の効率化も多く多くの教員が前向きにとらえている。

【改善を要する点】

平成25年度教員対象学校評価アンケートの結果において、質問「本年度、新しい指導法や教材教具を開発しましたか」に対する「かなりできた・ややできた」の回答が61.9%であることから、楽しい授業に取り組んではいるものの新たな開発にまで至っていない教員が4割いる。研究開発校であることから、常に新たな指導法や教材教具を生み出す創造力をかき立てる学校運営に尽力する必要がある。また、質問「本年度、業務を効率化して早く帰宅するなど勤務時間の短縮を図れましたか」に対する「かなりできた・ややできた」の回答が57.1%と目標に向けた取組の効果を6割弱の教員が実感しているものの、4割強の教員は勤務時間を短縮することができていない。今後、さらなる事務負担の軽減等を工夫していくが、完全に解決するためには、部活動指導者や学校ボランティアを配置するなど人的配置が必要と考える。

3 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階中の「A 十分達成されている」と判断する。

Ⅲ 自己評価根拠資料一覧

	観点番号	資料番号	添付	別添	資 料 名	備考
1	1-1・2	1-1・2-①		○	保護者対象学校評価アンケート集計結果	
2	1-1・2	1-1・2-②		○	平成 25 年度全国学力・学習状況調査結果	資料回収
3	1-1・2	1-1・2-③		○	平成 25 年度全国学力・学習状況調査結果の分析（国）	資料回収
4	1-1・2	1-1・2-④		○	平成 25 年度全国学力・学習状況調査結果の分析（数）	資料回収
5	2-1	2-1-①		○	NIE実践報告書「情報を集め、考えを創る取り組み」	
6	2-2	2-2-①		○	生活アンケート集計結果	資料回収
7	2-2	2-2-②		○	生徒会「一いじめ撲滅一附中なかよしの宣言に思う」	
8	3-1	3-1-①		○	平成 2 5 年度教員対象学校評価アンケート集計結果	